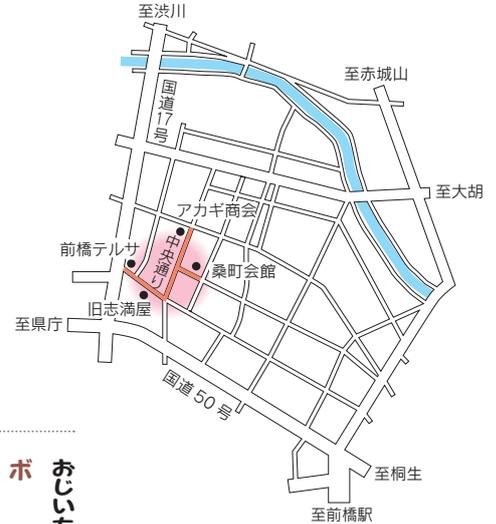


桑町

Kuwa-machi



昭和初期の桑町通り（現・中央通り）左から白牡丹、今井玩具店、鈴木薬局

おじいちゃん：今日は桑町に行ってみよう。

ボ：ク…なんて読むの？

おじいちゃん：「くわまち」と呼ぶんだよ。このまちに住む人たちは「くわのきまち」とも呼んでいたそうだよ。

ボ：ク…いつからこの町名があるの？

おじいちゃん：江戸時代からあるんだけど、江戸初期は前代田村、下之町（隣町2町を含む）とっていたんだよ。

ボ：ク…今はどこになるのかなあ。

おじいちゃん：桑町は今の中央通り商店街界隈だね。昔は中央通りを桑町通りと言っていたんだよ。

ボ：ク…なんでそういう町名になったの？

おじいちゃん：昔、まえばしは糸のまち、製糸業の盛んなまちだったんだよ。それを象徴するようになこのまちの中に大きな桑の木があったから、桑町って付けたそうだよ。明治40年ぐらまで春になると桑苗の市でにぎわったそうだよ。

ボ：ク…いつから、この地名が消えたの？そして何か残っているの？

おじいちゃん：この由緒ある町名が昭和時代の新任居表



昭和初期（詳細不明）の桑町（現在の中央通り）の街並み。着物と洋服が当時の世情を偲ばせる

示に関する法律が施行されたことにより、何ヶ町かが集まり、千代田町二丁目になったんだ。今は昭和42年に設立された財団法人の名称を桑町会館とすることで当時の町名を残すこととなったようだが、今はそれ以外になにもないね。ただ、江戸期の頃、町の守護神として三峯神社を祀ったようので、今は桑町会館の屋上に安置してある。

ボ：ク…当時の桑町だった様子を見てみたいよ。

おじいちゃん：まえばしは江戸末期から明治時代にかけて養蚕の盛んな糸のまちだった、特に戦前のまえばしは広瀬川の北には製糸工場が数多くあったそうだよ。遠い農村の女性達、たとえば新潟や東北から積雪を後にして上州に出稼ぎに来ていた女性達や近郊近隣の女性達もこの製糸工場の宿舎に泊まって生活していたんだよ。その人数は2万人以上だと言われている。仕事は相当過酷な労働をさせられて大変だったようだよ。この製糸工場に勤める女工さん達は、気晴らしに夜、仕事が終わるとまえばしの中心商店街である桑町通り



天保3年（1832年）より平成8年（1996年）まで営業を続けた志満屋片原饅頭



萩原朔太郎が撮影した桑町通り。現在の中央通り坂下より北方を望む

ボ 界限に出てきて、化粧品、バック、帽子、着物、小物、下駄などを買ったそうだよ。
ク 活気があったようだね。ボクが思うにはこの女工さん達のおかげで桑町界限の商店街に繁栄をもたらしたような気がするよ。

おじいちゃん 。。おじいちゃんもそう思うよ。それから周辺の農家の人たちが製糸工場に繭（まゆ）を納めに来て、帰りには必ず今はなき志満屋の片原饅頭（かたはらまんじゅう）を買って行ったそうだよ。この志満屋はテルサ南側と中央通りを結ぶ道のほどにあつたけど、この通りを片原通りと言っていたそうだよ。前橋藩時代に馬の運動のために行く道筋で馬場川の北側が原っぱになっていたから、その名前が付いたそうだよ。

おじいちゃん 。。明治の中頃、率先して各町にさきかけて電灯をつけたのは桑町だったんだよ。ネオンをまえばして初めてつけた店があつたそうだよ。また、まえばして最初に道路に舗装したのも桑町だったそうだよ。そして終戦の荒れたアスファルト舗装をいち早く美装したんだ。

ボ 。。何か、まえばしの最先端を走っていたようだね。すごいね。

おじいちゃん 。。でも、昭和4年に生糸相場が大暴落し、輸出が停止し、生産県である群馬県では、工場が閉鎖され、女工さんたちは職を失い、農家は繭が売れず、購買力は最低となり、まちは火が消えた状態になったん

だ。そして、太平洋戦争に入り、昭和20年8月5日の前橋空襲で焼け野原になってしまったんだ。それでも桑町の人々は商店街の復興に力を入れ一生懸命頑張った。そのおかげで戦後、桑町を中心とする商店街も本格的な店づくりがされて、昭和35年、36年頃には人通りも多くなり、魅力ある商店街として形成され、昭和37年に全国の商店街に先駆けて中央通りに、車を遮断して、歩行、買い物者の安全性が完全に守られた全蓋のアーケードが完成されたんだ。

ボ 。。ところで、商店街の中を歩くと蔵が幾つ

おじいちゃん 。。桑町は商店街だから物を保存するための蔵がたくさんあつたんだよ。でも、8月5日の前橋空襲で焼け残ったのはわずか4棟だそうだよ。ボクが見たのは、その一部だろうね。

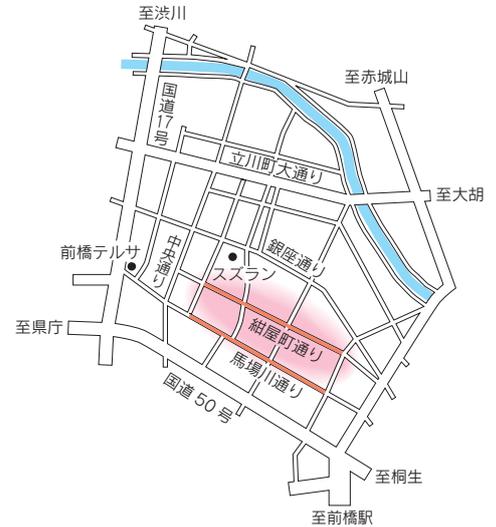
ボ 。。それにしても、なぜ町名もさることながら、昔の桑町通り、片原通りという名前を残せなかったのかなあ。

おじいちゃん 。。昔、町名変更に係つた方たちも苦労したと思うけど、由緒ある町名や通りの名前が消えてしまったことは残念だね。

ボ 。。でも、おじいちゃん、いずれにしても、桑町は蚕（かいこ）の国、生糸のまちらしい親しみのある響きがかもつた町名だね。
おじいちゃん 。。では、次回は東隣りの紺屋町に行ってみよう。

紺屋町

Konya-machi



昭和初期の馬場川通り

おじいちゃん：今日は紺屋町に行ってみよう。

ボ：ク：なんて読むの？

おじいちゃん：最初は「こうやまち」、その後「こんや

まち」と呼んでいたそうだよ。

ボ：ク：いつからこの町名があるの？

おじいちゃん：江戸時代からあるんだけど、江戸初期は

天川原村とっていただよ。

ボ：ク：今はどこになるのかなあ。

おじいちゃん：紺屋町は今の馬場川通りからスズランデ

パート付近の銀座通りまでの一帯だね。

その間の通りは紺屋町通りというんだ

よ。

ボ：ク：なんでそういう町名になったの？

おじいちゃん：前橋城があった江戸時代のまえばしは、

城下町だったんだよ。職人や商人が城の

まわりに集まって住む、こうしてできた

町が城下町なんだけど、紺屋町もその一

つだったんだ。紺屋とは染物屋のことで、

染物の職人さんたちが住んでいたところ

から紺屋町って付けたそうだよ。

ボ：ク：まちの中には紺屋町の名残があるのか

おじいちゃん：ちよつと前までは、まちに流れている

馬場川に川底まで降りられる階段があっ

たよ。おそらく、染物屋の職人さんが、

布を染める時に階段を降りて馬場川の水

を使ったんだね。馬場川の水は今よりは

るかに澄んでいたのだろうね。その後は

器物や洗濯をするための洗い場になっ

た。あと、まちの西端、桑町境に越後

から分身された菅谷（すがたに）不動尊

があった。眼に特効があったそうで、ま

ちの鎮守様であった。惜しくも今はなく

なってしまうた。

ボ：ク：その後、紺屋町はどうなったの？

おじいちゃん：明治の近代化を迎え、生糸の好況、群馬

県庁の誘致などの影響により紺屋町を中

心として隣町2町を含む周辺一帯は一段

と華やかとなり、職人町から花街になり、

まえばし一の花柳界になったんだよ。

ボ：ク：花街、花柳界って何？

おじいちゃん：芸妓（げいぎ）◎芸者のこと）さんが出入



明治38年、紺屋町に移転した前橋商業会議所



昭和 20 年代、紺屋町のお祭り

りする界隈を花街、芸妓さんの世界を花柳界というんだ。花街の中は、芸妓さんを中心に料理屋、待合茶屋、貸席、貸座敷で成り立っている。

ボ **ク**..紺屋と花街は何か関係があるの？

おじいちゃん..東京では、都会の遊興施設が集中する盛り場では大正時代まで、まだ江戸時代の雰囲気をとどめる表現があった。盛り場にある店の玄関には紺色の暖簾(のれん)が下げられ、夏になると涼しさを演出するため、料理屋では青い暖簾が使われていた。また、紺屋職人さんの作った染物と芸妓さんの着物が何か関係しているのかな。おじいちゃんもよくわからないけど、このような意味でまえばしも紺屋職人さんの住むまちから花街へと引き継がれているのではないかと思っただ。

ボ **ク**..花街の様子を見てみたいよ。

おじいちゃん..紺屋町一帯は、大昔利根川が流れていて、その伏流水があったんだよ。まちの露地をはさんで芸妓さんの住む長屋があり、その中には井戸が幾つもあって、また風呂屋も幾つかあったんだよ。この井戸や風呂屋の水は、この伏流水なんだろうね。その風呂屋には午後になるとお座敷に上がる前に芸妓さんが入っていたそうさ。また、紺屋町通りや馬場川通り界隈の花街では、昼間でも狭い路からお稽古の三味線の音が聞こえてきたり、おどりの稽古帰りの姐さん方の姿が見えたそうだよ。そして、灯の入るころになると貸

席、貸座敷から三味線の音が聞こえ、活況に満ちた夜の世界になっていくんだ。

ボ **ク**..紺屋町は昼夜問わず、何か風流で独特な香りのするまちのようだね。

おじいちゃん..因みに当時の男女の人口割合は、女性のほうが上回っていて、男性の倍の人数が生活していたそうだよ。

ボ **ク**..女性が主役の世界のまちなんだね。

おじいちゃん..そうだね。でも、花街は芸妓さんのお相手である男性がいて成り立っていたわけだけど、その男性は他のまちから来る生糸商人をはじめとする商家の方々であったり、お座敷は商談にも使っていたそうだよ。

ボ **ク**..今の紺屋町はどうなんだろう。

おじいちゃん..戦後からお座敷は激減し、今はもう花街は消えてしまった。粋を好む客がいなくなってしまうこと、他に安易な享楽飲食店が増えたからかな。そして、昭和時代の新住居表示に関する法律が施行されたことにより紺屋町という町名も消えてしまった。

ボ **ク**..なんとなく寂しいね。

おじいちゃん..今は色々な飲食店が建ち並び、歓楽街として華やかな夜は変わらないけど、艶めいた風情が漂うまちではなくなってしまうような気がする。

ボ **ク**..でも、おじいちゃん、紺屋町も花街もなくなってしまうけど、紺屋と聞くと何

とも言えない香りがするまちだね。

おじいちゃん..では、次回は豎町に行ってみよう。